



USER REPORT

新しいユニフォームと一緒に、  
新しい医療と介護のカタチを創造していきます。

TOPIC 01 ユニフォームも変えて新しい介護医療院へ  
イメージも一新したいという思いがありました。

緑豊かな滝山城址自然公園内に位置する「三愛病院」。2020年の春に180床のうち120床を、療養型の病院から「さんあい介護医療院」としてリニューアルしました。看護部介護課課長の兒島さんにお話を伺うと、「介護医療院は要介護の高齢者の方々に医療や介護だけでなく、生活の場を提供する施設です。当施設は『森のホテル』をイメージさせる恵まれた環境の中で、ご自宅と同じように過ごせるよう、ご利用者様に寄り添ったケアを心がけています」と説明してくださいました。介護医療院開設にあたって、スタッフのユニフォームも新しくすることになり、アシックスのメディカルユニフォームを介護士の制服としてご採用いただきました。選定に関わった介護主任の豊島さんは「今回は、4年に1度のユニフォーム更新と介護医療院への転換が重なり、イメージを一新したいという思いがありました。そこで介護医療院の病棟転換プロジェクトチームと介護課主任とで相談し、デザイン性と動きやすさが特に優れていたアシックスに決めました。腕の上げ下ろしがスムーズで、着た瞬間からこれまでのものとは違う」と感じたようです。



院長 大川原さん 看護部長 川戸さん

介護主任 豊島さん 介護主任 中野さん 介護課 課長 兒島さん

TOPIC 02 動きやすさとスタイリッシュなデザインが  
介護の現場でも好評です。

さらに豊島さんから「スタッフの年齢や体形がさまざまなので誰が着てもシルエットが綺麗に見えるデザインを選びました。また前屈みになる作業が多いので、少し丈が長くてお尻が隠れるところも気に入っています」と女性ならではの意見も聞けました。また、介護主任の中野さんからは「以前のユニフォームはフィット感が強く、大きく腕を上げた時など、上がりきらないことがありましたが、アシックスは生地に伸縮性がありデザインもスタイリッシュ。活動的に動くので汗をかきやすいのですが、通気性も良く現場でも好評です」と機能性も実感いただけたようです。



TOPIC 03 ユニフォームはご利用者様と向き合う  
心構えであり、連帯感を育むものです。

スタッフの皆様にとって、ユニフォームとはどのような役割を担っているのでしょうか。中野さんは「ご利用者様と向き合う時の心構えを表すものであり、チームケアという仕事に携わる連帯感を育む大切なものです」と熱く語っていただきました。看護部長の川戸さんは「当院では医療に関わる部分と生活に関わる部分で、スタッフ全員が自分の資格を十分に活かしながら勤務しています。その中でユニフォームは、自分たちの職種を意識してプロとしての自覚を促す役割を果たしています」とお話しくださいました。自然豊かなロケーションの中で、これからの新しい介護のカタチをアシックスのユニフォームが包んでいます。

これからの新しい医療・介護のカタチをめざしています。

日本の社会は「人生100年時代」を迎え、より良い晩年を送ることが求められるようになってきました。当院では「仁愛・敬愛・慈愛」の三つの愛を提供することをモットーとし、「わたしたちは『人としての尊厳』を重んじ、その人らしさを大切にします」を基本方針として、ご利用者様とご家族に安心してお過ごしいただけるよう日々取り組んでおります。また災害時にはたとえ孤立しても、自立して安定したサービスを提供できる体制を整えるなど、質の高い医療・介護に努めています。今後は看護・介護の各々が専門性を活かした形で独立し、両輪となってサービスを提供できることをめざします。

院長 大川原 真澄さん



〒192-0005  
東京都八王子市宮下町377番地  
三愛病院  
<http://www.sanai-hosp.jp/>  
さんあい介護医療院  
<http://riyojin.sanai-hosp.jp/>